

行政評価シート【分野別施策】

分野別施策３－②

市民交流・多文化共生を推進する

目指す姿

- 友好都市・姉妹都市※¹との相互理解が深まり、異なる文化や価値観を受け入れることができる豊かな人間性が育まれています。また、多文化共生のまちとして、多様な市民が言語や生活習慣の違いを理解し、尊重し合いながら暮らしています。
- 市民、企業及び大学が強みを持ち寄って交流し、地域への愛着を深め、つながりができています。

※¹ 様々な分野での交流や友好親善を目的として、両市長が書面にて提携に合意した都市のこと。名称の使い分けに法律上の定めはないが、本市では、国内の都市を友好都市、海外の都市を姉妹都市としている。

成果指標の達成状況

指標名	実績値					目標値
	計画 策定時	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2027 年度
市民交流事業参加者数【累計】	238 人	3,169 人	7,853 人			638 人
日本語教室の受講者数【累計】	54 人	276 人	404 人			204 人
市民・大学交流委員会の事業数	11 事業	12 事業	12 事業			14 事業

施策の推進に向けた主な取組の「成果」

- ・ ローレンス市青少年派遣団及びカンザス大学短期留学生との交流会やホームステイを実施するとともに、姉妹都市連携３５周年となるローレンス市からの公式訪問団を受け入れ、友好を深めました。また、港小学校と土沢中学校にて、カウナス市の学校とのオンライン交流を実施したほか、国際交流員を学校や関係団体の会合に派遣し、様々な講座や交流事業を行い、市民の国際感覚と国際意識を高めることに寄与しました。
- ・ 各友好都市との小学生交流事業のほか、七夕まつり郷土芸能披露や友好都市うまいもんフェア等を実施し、各友好都市の魅力を発信しました。
- ・ 外国籍市民相談窓口において、テレビ通訳サービス用タブレットを活用し、１７言語で対応したほか、出入国管理・在留資格相談を実施しました。また、神奈川県と連携した日本語講座を開催するとともに、日本語教室のオンライン化に向けた取組の実施に加え、日本語ボランティア

の養成講座や研修講座を実施するなど外国籍市民が暮らしやすい環境の整備に努めました。

- ・ ひらつか国際交流フェスティバルを開催し、外国籍市民とともに各国の文化の紹介や音楽などを楽しみながら、お互いの文化を理解し交流を深め、市民の国際理解と多文化共生の推進を図りました。
- ・ 平塚市民・大学交流委員会の文化・生涯学習、スポーツ、福祉、環境、観光・産業の5つの推進部会により12事業を実施し、相互の交流が行われました。また、平塚市・東海大学交流提携40周年記念事業として、東海大学の学生と小学生による平塚新港擁壁への「ひらつかタマ三郎」と海の生き物の描画や心のバリアフリーを育むためのPR製品の共同開発、障がいのある方への理解促進を目的としたイメージキャラクターデザインなどを実施しました。

施策を推進する上での「課題（・）」と、課題解決を図るための「取組方針（⇒）」

- ・ 友好都市・姉妹都市の魅力について、理解と関心を高める必要があります。

⇒社会情勢や市民ニーズを捉えた様々な交流事業を実施し、友好都市・姉妹都市の魅力を発信するとともに、交流をより深める効果的な事業内容や実施方法について検討します。

- ・ 増加傾向にある外国籍市民が地域で暮らしやすい環境を整備する必要があります。

⇒外国籍市民相談窓口において、多言語による相談や情報提供を行うとともに、関係機関と連携して、日本語教室の充実を図ります。また、職員が「やさしい日本語」で対応できるよう職員研修などを実施します。さらに、外国籍市民とともにお互いの文化を理解し交流を深め、市民の国際理解と多文化共生の推進を図ります。

- ・ 企業や大学の持つ知識やノウハウを活かし、市民、企業及び大学のつながりを強化する必要があります。

⇒平塚市民・大学交流委員会の5つの推進部会で事業を実施するとともに、多くの市民の参加を得るための工夫を凝らし、市民・企業・大学・市による交流事業の展開を図ります。

関連事業

友好都市交流推進事業、国際交流活動推進事業、多文化共生推進事業、市民・企業・大学等交流事業